



ほつとするね
緑の府中

指導室 だより

第 80 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室
〒183-8703 府中市宮西町2-24
電話 042-335-4063



府中警察署少年係指導による「声だし訓練」

当日は、一・二年生、三・四年生、五・六年生及び保護者・地域住民を対象に実施された。

1 一・二年生の部では、DVD（連れ去り防止）鑑賞「ユーキィでやっつけろ」

・不審者からの逃げ方

・防犯ブザーの使い方

2 三・四年生の部では、DVD（連れ去り防止）鑑賞「強い心で考えよう」

・不審者からの被害防止

3 五・六年生の部では、パワーポイント「万引き防止」

・携帯電話・インターネットによる被害防止

4 保護者・地域住民の部では、少年の非行被害防止などについて、映像、パワーポイント、講話、実技指導等による有意義な訓練が実施された。

低学年の訓練では、登下校中や放課後に出くわした不審者から身を守るための実技訓練が行われた。声だし訓練では、実際の場面では、大きな声で「助けろ」と言えるかどうか、勇氣

府中市立府中第三小学校（平原保校長）では、4月28日（水）に府中警察署少年係の指導の下、「セーフティ教室」を実施した。

このセーフティ教室は、「小、中、高、特別支援学校において児童・生徒の健全育成の活性化及び充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会の連携による非行・犯罪被害防止教育の推進を図る」というねらいのもとに、都内の公立学校のすべてで行われている活動である。

「自分の命は自分で守る」 ための力を身に付けよう

保護者、地域住民も参加しセーフティ教室が行われる

府中市立府中第三小学校

当日は、一・二年生、三・四年生、五・六年生及び保護者・地域住民を対象に実施された。

1 一・二年生の部では、DVD（連れ去り防止）鑑賞「ユーキィでやっつけろ」

・不審者からの逃げ方

・防犯ブザーの使い方

2 三・四年生の部では、

・DVD（連れ去り防止）鑑賞

「強い心で考えよう」

・不審者からの被害防止

3 五・六年生の部では、

・パワーポイント「万引き防止」

・携帯電話・インターネットによる被害防止

4 保護者・地域住民の部では、

少年の非行被害防止

などについて、映像、パワーポイント、講話、実技指導等による有意義な訓練が実施された。

低学年の訓練では、登下校中や放課後に出くわした不審者から身を守るための実技訓練が行われた。声だし訓練では、実際の場面では、大きな声で「助けろ」と言えるかどうか、勇氣



パワーポイントによる「万引き防止」指導

がある。そのためとっさの時に備えて、家や学校で「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「ただいま」など、あいさつの言葉を通して、声を出す練習を心掛けてほしいとの指導があった。

また、防犯ブザーの使用では、自分を守るための大切な道具であり、すぐに鳴らせる場所につけておくことが大切であるとの指導があった。

中学年の訓練では、児童が自分で判断する力を身に付けるための訓練が行われた。映像をもとに、人通りが多い所と少ない所、見通しの良い公園と悪い公園等の事例をもとに、「どっちが安全」かを考えさせ、被害に遭いそうになった時の行動の仕方についての学習が行われた。



保護者・地域住民への講話

高学年の訓練では、万引き防止について、パワーポイントをもとに、具体的な事例を挙げながらの説明があり、「万引きは犯罪である」との指導があった。

また、携帯電話やインターネットによる被害防止には、心配なことがあつたらすぐに家族や大人に相談することが大切であるとの指導があった。

このほか、全学年を対象に、エレベーターの安全な乗り方（被害防止）として、ドアの近くが良い等の説明があった。

保護者、地域住民へは、少年非行を防止するために、また、子供を犯罪から守るために、家庭や地域でできる具体的な取り組みについての講話があった。

「ひとの子も
正しく叱る 思いやり」



今、国語教育を考える

府中市立南町小学校

校長 吉川 佐和子

平成23年度から、小学校では新学習指導要領が完全実施となる。「生きる力の育成」「基礎技能の習得と活用」「道徳教育の充実」等のキーワードがあるが、その中でも「言語活動の充実」を各教科・領域で求められているのが特徴的である。

児童に確かな言葉の力を付けていくためには、各教科・領域の中核となる国語科の中での指導が重要となるであろう。

新学習指導要領の国語科の目標では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」と示されている。この目標を達成するために、国語科の授業をどのように組み立てていくことが重要であるか、考えていきたい。

言葉の力を育てる

生きてはたらく言葉の力を育てる授業を構想するとき、指導

内容を受容するだけの学習、あるいは「教えたこと」だけが先行する学習から脱却することが大切である。児童の自己実現の願いや学習の目的意識、課題意識を明確にし、日常生活や他教科でも活用できるものとしていく必要がある。

教科書の教材文を読み、感想を書く活動でも、その繰り返しによって、基礎基本である言葉の力は次第についていく。それに加え、自分の課題を意識できるように活動を行うことによつて、論理的な思考力や多様な考えを聞き取る力やメモをとる力も身に付いていく。児童は、言葉で感じ、言葉で思考し、言葉で想像し、言葉で表現し、言葉で理解する。授業で、どのような言葉と出会い、そのよさに気付くことができるかが、重要な鍵となる。

三年生で「ありの行列」という説明的な文章を一学期に学習する。児童にとって身近なありの行列の話は意欲的に取り組む

教材である。感想を書かせる際、「はじめて知っておどろいたことは、…」「前に〇〇という本を読んだ。それに比べると、…」

「…を見たことがある。」「…という書き方でよくわかった。」等々感想を書くときに使いたい言葉の指導を行うことで、児童により確かな言葉の力を付けるとともに論理的な思考力を育てることもつながる。

さらに、感想を一覧表にまとめたものを用意して配布する。児童は、そのプリントを読んだ後、友達と感想交流をする。自分の感想との共通点や相違点について、自分の考えを話し、友達の考えを聞く。参考になる意見はその場でメモをしたり何人か集まってミニ討論会を繰り返したりする。このような活動を通して、確かな言葉の力を育てていくことができるであろう。

表現力と理解力を育てる

国語というと、「読み書き」が基礎・基本といわれているが、

単に文字を読み書きすることだけでなく、文字や語彙に関する知識を基に、内容や事柄を適切に表現し正確に理解することが重要となる。

そのためには、一人一人の児童の学習が成立する時間と場面を確保することが重要である。その単元でのねらいは、できる限り具体的な児童の姿で示していくことがポイントとなる。児童の着眼点や語句、その児童の論理的思考、ノート表現などに着目して、毎時間の支援計画を座席表等に記載して授業を進める。さらに、児童の書いた作品に次時への意欲や方向性を示す助言を行うことで、一人一人の読みを確かなものにしていくことができる。

また、その単元の最終の活動を始めに示し、見通しをもって学習に取り組むようにすることも重要である。五年生、「人物の考え方や生き方をとらえよう」の単元で『わらぐつの中の神様』の教材文に出会わせる前に「大切なもの発表会をしよう」という最終の活動を提示する。自分にとって大切なものをワークシートに書き、そこに込められた思いを書き込んでおく。常に自分の大切なものを意識しながら、わらぐつの中の神様を読み進めていくことで、登場人物

の考え方や生き方をより深く読み進めることができる。読み進めていくうちに、児童は、最初に自分が大切だと考えていたものが、本当に価値あるものなのかと考え直したり、そのものに込められている本当の思いを感じ取ったりしていく。

豊かな心を育てる

国語の学習では、教材文と向き合い、その題材のよさや作者・筆者に自然に興味を示していく。この時期を逃さず、読書へとつなげていくことが児童の豊かな心を育てていくことにつながる。教材文で学んだことを基に、本の世界の楽しさを味わっていく児童を育てていきたい。

五年生「要旨をとらえよう」の学習では、サクラソウとトラマルハナバチの教材文で、要旨のとらえ方を学んだ後、自分の選んだ本の推薦文を書き、発表し合う読書活動を行う。友達への推薦文を聞き、読んでみたい本の世界が広がっていく。南町小学校では、「読もう、調べよう、伝え合おう」を研究主題に読書活動を取り入れた国語科の授業の工夫の研究を行っている。11月12日の研究発表会でその成果をみなさんにお伝えできたら幸いである。

わが校の特色ある教育 NO. 44

「伝統ある稲作活動を通して地域の中で元気に育つ子供たち」

府中市立府中第八小学校

副校長 松下 雄太

本校は歴史と伝統のある府中市の南東に位置し、今年で創立54年になる。近隣には水田や畑が点在する住宅街にある。学校の南には中央自動車道が走り、集合住宅の立ち並ぶ是政駅周辺の先に多摩川が流れている。また西には東京競馬場があり、その奥には由緒ある大國魂神社の杜を眺めることができる。東には府中市の名木100選の枝垂れ桜と山門で有名な東郷寺があり、北には昔からその湧水で地域の風土を潤してきたお瀧神社がある。毎年、春と秋には地域の祭りが盛大に行われ、お神輿



根元から優しく取っていきます (苗取り)

や大きな山車が地域を巡り、山車の上では子供たちが伝統のお囃子を踊っている。
《歴史ある稲作活動》
本校の特色のひとつに敷地内の校内田を活用した稲作活動がある。約150㎡の校内田は学校の敷地の東側にある。周囲は各学年の畑になっており、たくさんさんの農作物の育つ緑豊かな環境になっている。この校内田は本校の30周年に保護者や地域の方々の協力で完成したものである。当時この場所は畑であったので、水をまいてもすぐに土中にしみ込んでしまった。いわゆる「ざる田」という稲作に適

さない土地だったそうだ。そこで考えた末、埼玉県荒木田という保水性の良い土を選び、遠方よりその土を運びこんで作りあげたとのことである。だからこの校内田には、子供たちが末永く稲作活動に取り組めるようにという保護者や地域の方々の大きな願いが込められている。
《稲作活動の1年間》
毎年五年生が地域の方々のご支援のもと、稲作活動に取り組んでいる。4月に種をまき、天候に合わせて水やりを調節しながら育てている。種まきから40日程経つと緑の苗が20cm程に成長する。6月には保護者の方々の協力をいただき苗取りと田植えをする。満面に水を張った校内田に緑の苗の直線が何本も風に揺れている光景は思わず時を忘れてしまいそうである。その後は毎日水の管理と、稲の成長の記録を行う。8月終わりの稲が実を付けるころ、雀に食べられないように校内田一面を覆うようにネットを張る。10月、黄色の稲穂が秋風に揺れる季節を迎えると稲刈りになる。11月の脱穀と籾すりでは、取れたお米を昔ながらの一升枧や一斗樽を使って量る。目方秤に米袋を載せその年の収穫高を発表すると子供たちの歓声があがる。そして12月の収穫祭では収穫を

祝って全校で餅つきを行う。
《盛大に行われる収穫祭》
この収穫祭は地域や保護者のたくさんの方々にご協力いただき盛大に行われる。杵臼等を準備してくださったり、収穫した野菜を提供してくださったりと学校が地域に支えられていることを実感している。前日、大勢の保護者の方が野菜をたくさん洗って切ってください。そして、3つ分の大鍋でじっくり煮込みけんちん汁を作る。五年生も100kg程の米とぎをし、4つの大容量に入れて十分な量の水に浸して明日を待つ。
当日、早朝から地域の方々と教職員で準備し、安全祈願の火入れ式を行う。五年生は朝の集会以稲の成長や活動の記録を発表する。その後各学級で盛大に餅つきをする。子供たちは、自分たちが一生懸命育てたお米で餅をつき、地域の方々の愛情のこもったけんちん汁につきたてのお餅を入れて味わう。子供たちもお手伝いの保護者の方も、地域やスポーツ団体の方も、参加した全ての人の笑顔が輝く一日になる。
《かけがえない宝物》
その昔、本校の周囲は水田が多く校外の田を活



倒れないようにしっかり植えていきます (田植え)

用していた時もあったそうだ。保護者の方の中にはその校外田を経験した方もおり、当時の稲作活動の話を懐かしそうに語ってください。また、毎年各学級から1名の保護者の方に稲作活動のお手伝いをお願いしているが、多くの方が稲作の奥深さに触れ、田植えや稲刈りを楽しんで取り組んでくださる。子供たちも、伝統あるこの稲作活動を通して、1年間継続して育ててきた収穫の喜びと、お世話になってきた地域の方々への感謝の気持ちをはぐくんでいる。まさにこの稲作活動は地域に根ざす府中第八小学校のかけがえない宝物となっている。

わが校の特色ある教育 NO. 45

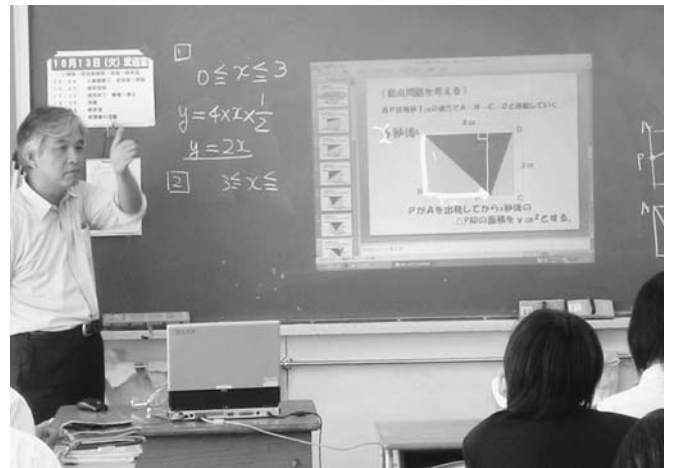
「はばたく四中」

府中市立府中第四中学校

副校長 住吉 豊

本校では、目指す学校像の柱として「学ぶことに楽しみを感じることができ学校」「人と人とのふれあいを大切に学校」「生きる喜びを実感できる学校」の三つを掲げ、実現に向けて教職員一同日々取り組んでいる。

特に、はじめの柱である「学ぶことに楽しみを感じることができ学校」では、「学校は生徒の為にある」という理念に立ち、生徒の知識、能力、思考、判断力を最大限伸ばし引き出していくために、私たち教師自身が授業のプロとしてあらねばならないという自覚と、それに見合った実力を兼ね備えることが



大切と考えている。そのため、「わかる授業」「学ぶことが楽しい授業」「工夫された授業」「二人一人を大切に、きめ細やかな授業」を展開することを目標として、本校では以下の取り組みに力を入れている。

・ICTを活用した
授業改善の取り組みと成果

平成20年、21年度府中市研究協力校としてICTを活用した授業改善に取り組んだ。視聴覚機器の効果的な活用が、生徒にとって「わかりやすい授業」であるということはずで様々な研究結果から分かっている。しかしながら、機器の準備や

使用資料の作成など準備段階に時間が割かれ、忙しい中ではなかなか十分な活用が難しかった。

本校では誰もが手軽に活用できる方法を目指し、プロジェクトやパソコン、そして昨年度導入された電子黒板の使用等、視覚的な資料をレベルに応じて作成し全員が研究授業を実施した。教員が互いに授業を参観しあい、保護者の目線で評価するなど互いの授業を意識したことが授業改善に影響していると考えられる。

また、本校の地域特性としてICT関連企業やそこに関わる保護者の方も多いため、研究主題に『地域との連携』を掲げ、保護者と連携して講師やプログラムの作成を依頼できたことも大きく研究に貢献したといえる。

実際、授業後に生徒アンケートを実施したところ、二年時には授業がわかりやすいと答えた生徒の割合が57%だったのが三年時のアンケートでは71%に上がるといえる。

本年度も、ICTの活用を中心とした授業改善に継続して取り組むことを校内研究の柱にする。

・放課後補充学習の充実

現在でも、基礎学力の定着に向け夏季休業中に教科の補充授業を1週間程度実施しているが、授業でわからないところなど先生にもう一度教えて欲しいといった生徒や保護者のニーズは多い。しかし、普段の放課後は委員会やクラスの活動、部活動に会議と教師の放課後は大変忙しい。そこで、府中市の周りには国立の大学が多いこと、また、大学が地域との連携を打ち出していることから、本年度は大学の地域交流事業に支援を求め、学生ボランティアの活用を図ることとした。

ないかと考える。国語力を高め、これらの課題を解決していくためにも読書への取り組みが不可欠である。

本校では毎朝10分間の読書活動の取り組みを行っており、生徒にも定着している。教室で静かに読書に取り組み廊下は静寂に包まれている。また、朝読書の取り組みだけでなく、図書支援員による行事に合わせたタイムリーな本や話題の新刊本の図書新聞や展示による紹介活動、委員会による読書への取り組みなどきめ細やかな生徒へのアプローチによって、昼休みや放課後の図書の貸し出しも伸びている。

まずは英語と数学において、それぞれ週に1回程度ではあるが、特に三年生を対象として、基礎学力の不足している生徒に一年時からの内容の定着を図ることをねらいに実施する。また、教師にはその分生徒の為に翌日の授業に向けた準備を丁寧に行ってほしいと考えている。

・読書活動の充実

すべての教科において、学習における理解力、思考力、想像力の元となるものは国語力である。また、最近問題となっているコミュニケーション能力の低下も国語力の低下にあるのでは

以上、あたり前のことではあるが、今後も着実な取り組みを一つ一つ重ねながら、本校は現状に甘んじることなく、生徒一人一人の力をさらに伸ばすことを目標に、前進を目指していきたいと考えている。



平成22年度 府中市教育委員会主催夏季研修会一覽

No.	研 修 名	対象	定員	期 日	会 場
I 五市合同夏季専門研修					
1	国語「読むこと」の力を高める授業づくり	小	50	8 / 3	調布市教育会館
2	国語「言語活動の充実を図る授業づくり」	中	40	7 / 30 午前	府中市立教育センター
3	社会「新学習指導要領を踏まえた社会科の授業づくり」	小	50	7 / 29・30	武蔵野市役所会議室
4	社会「主体的な学習を促す社会科の授業づくり」	中	40	8 / 2 午後	狛江市立狛江第三中学校
5	算数「算数的活動を充実させる授業づくり」	小	60	8 / 4	調布市教育会館
6	数学「新学習指導要領の視点を踏まえた授業改善の在り方」	中	40	7 / 26	武蔵野市役所会議室
7	理科「楽しい理科の授業づくり」	小	40	8 / 3・4	武蔵野市役所・武蔵野市立小学校
8	理科「理科は感動だ！一理科好きの生徒を育てる教材と指導の在り方」	中	40	7 / 29 午後	府中市立教育センター
9	生活「生活科の創造的な展開について」	小	20	7 / 27 午前	府中市立教育センター
10	図工・美術「児童・生徒のよさを生かした図画工作・美術の授業づくり」	小・中	40	7 / 27	狛江市立学校
11	音楽「伝統音楽の指導のポイントについて」	小・中	40	8 / 6 午後	府中市立府中第五小学校
12	体育「授業改善の視点と新しい運動の授業づくり～戦術を活かしたボール運動について～」	小	70	7 / 27	調布市教育会館 (午前) 調布市立第一小学校 (午後)
13	体育「男女共必修化に向けたダンスの授業づくりについて」	中	50	8 / 3 午前	調布市立調布中学校
14	家庭「明日の授業に結び付く家庭科の指導におけるポイント」	小・中	30	7 / 26	三鷹市教育センター
15	技術「新学習指導要領の改訂の要点を踏まえた授業づくり～『生物育成に関する技術』の内容について～」	中	20	7 / 27 午前	都立農業高等学校
16	英語「コミュニケーションを支える文法事項の確実な定着を図るための授業づくりのポイント」	中	40	7 / 29	三鷹市教育センター
17	道徳「道徳の授業展開の工夫と道徳教育の推進」	小	40	7 / 28	狛江市立学校
18	道徳「自尊感情をはぐくみ他者とのかかわる力を高める授業づくり」	中	40	7 / 28	三鷹市教育センター
II 不登校対応研修					
25	〔講 義〕「不登校問題概論」 〔事例研究〕「不登校の児童・生徒の事例研究」	小・中	40	7 / 29	府中市立教育センター
III 学校教育相談研修					
26	「マッピングの理論と実践」 「円滑な人間関係をつくる学校カウンセリング」 「学校で実践するアサーショントレーニング」 「学校づくりにいかすソーシャルスキル教育」	小・中	40	7 / 27 7 / 28	府中市立教育センター
IV IT研修					
31	ホームページ・ビルダー	小・中	40	7 / 23 午前	府中市立府中第九中学校
32	電子黒板活用情報モラル	小・中	40	7 / 23 午後	府中市立府中第九中学校
V 選択課題研修					
40	和太鼓実技研修	小・中	20	7 / 26・27	府中市立府中第三小学校
41	書写実技研修	小・中	30	7 / 26・27	府中市立教育センター
42	英語活動研修	小	40	7 / 23 午前午後	府中市立教育センター
43	英語活動研修	小	40	7 / 26 午後	府中市立教育センター
44	英語活動研修	小	40	8 / 2 午前午後	府中市立教育センター
45	英語活動研修	小	40	8 / 3 午前午後	府中市立教育センター
46	英語活動研修	小	40	8 / 4 午前午後	府中市立教育センター
50	福祉施設体験研修	小・中	約40	8 / 4～8 / 6	府中市社会福祉協議会 他市内福祉施設
51	企業体験研修	小・中	3	7 / 28～7 / 30	イトーヨーカドー府中店 (初任者等)
52	学級経営研修	小	30	7 / 26 午前	府中市立教育センター

	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
7月研修会・委員会等予定	1	木	算数・数学指導員研修	小＝第二小 中＝第一中	授業参観・協議
	2	金	ICT活用推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	5	月	生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	5	月	特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	6	火	体力向上委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	7	水	中学校体育実技研修	府中第一中学校武道場	「木刀による剣道基本技の稽古法の指導」
	8	木	教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
	9	金	人権教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	分科会 (指導案検討)
	9	金	学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
	13	火	初任者等研修	教 育 セ ン タ ー	宿泊研修のガイダンスなど
	30	金	第1回就学指導協議会	教 育 セ ン タ ー	全体会・協議など

中学三年生の娘がリビングで勉強道具を広げている。リビングといっても家族が食事をするテーブルが部屋のほとんどを占め、テレビもあれば、せわしく出入りするため勉強に集中できない環境ではない。途中で食事の支度の手伝いや用事を頼まれることも少なくないが、それでも娘はそこがいいのだと言う。少々騒がしくてもそこが落ち着く場所だ、疑問があればすぐに聞けるのがいいのだそうだ。こちらもわかる範囲で答えたり、自分で調べるように指示をするが、学校の様子や友達との関係を聞く機会が必然的に多くなる。成績は別としても、娘は意外に上手に生活の音をBGMにして、家人との会話も楽しみながら学習をしているようである。

ベネッセの子ども生活実態基本調査(2009年度調査)によると、「家庭での会話は子供の精神的な安定をもたらし、より学習に向かいやすくする。」という報告がある。その理由として、「会話そのものが知的な情報や学習の価値を教えたり、学習の目標や進路について考えたりする機会をもたらし、それが学習行動に結びつく。」と分析している。しかし、単に会話の頻度が多ければいいわけではない。「いいことをしたときにほめてくれる」「困ったときに相談ののってくれる」「あなたのことを大人として扱ってくれる」というような肯定的な関係においてはプラス的作用をするが、「いつも『勉強しなさい』と言う」「何でもすぐ口出しをする」「考えをおしつける」等の否定的な関係の場合、会話の頻度が多くとともに子供が学習に向かいやすくなるとは言えないそうだ。親の立場としては大いに反省しつつ、教育に携わるものとして、「家庭」は「学校」と置き換えて考えられる。目の前の子供たちと肯定的な関係ができてい

会話の効用

か、その上で子供たちとの会話を大切にしているか、そこは安心できる場所になっているのか、それを改めて見つめ直さなければならぬ。それが満たされて初めて子供たちは落ち着いて学習に打ち込めるに違いないのだ。

(指導主事 小野満賢)



文化スポーツ部図書館
館長補佐 坪井 茂美
夏休み。家族旅行やプール、宿題にと、子供たちは忙しく楽しい毎日をごす。

そして、たくさんの子供たちが図書館を訪れる。宿題の調べものや読書感想文の本を借りるため、市内の図書館(現在宮町図書館休館のため12館)に、保護者や友達と一緒に朝から来館するのである。

学びの窓

楽しい夏休みの読書を

図書館では、この時期、小学生向けにお薦めの本のリストを作成し、学校を通じて配付している。掲載された本は各館で展示し貸出を行っている。毎年新しい本の中から選定された本も、展示される。子供たちが同年代の主人公たちと、様々な経験や楽しかったりつらかったりする感情を共有することができる楽しい本を選んでほしいと願う。



あとがき

100-110。「たった一度の失敗で、長年にわたって培ってきた信用も無になる」という意味を表すそうだ。一方、「失敗は、成功のもと」の格言がある。「失敗すれば、その原因を反省し、方法や欠点を改めるので、かえってその後の成功につながる」となる。この「失敗」という言葉をマイナスやプラスの価値として解釈することがある。また、自己の在り方や経営の教訓として受け止めることもある。勉強や仕事上のこと、人間関係等のことで、この言葉を自身の生き様に重ね合わせたことはないだろうか▼学校教育の視点ではどうか。担任を経験している教師なら一度や二度は、思い浮かぶはずだ。子供の指導や保護者との話の中で、あるいは通知表の記述で、進歩や成長に導くための「励まし」の価値として評価し、生かしていると思う▼もう少し夏休みを迎える。子供たちにとっては、様々な経験や体験ができる絶好の機会でもある。その中で、失敗から学ぶこともあるだろう。それは、生きる力をはぐくむ糧として蓄積される。先生方も十分に英気を養ってほしい。

(小澤 宏)